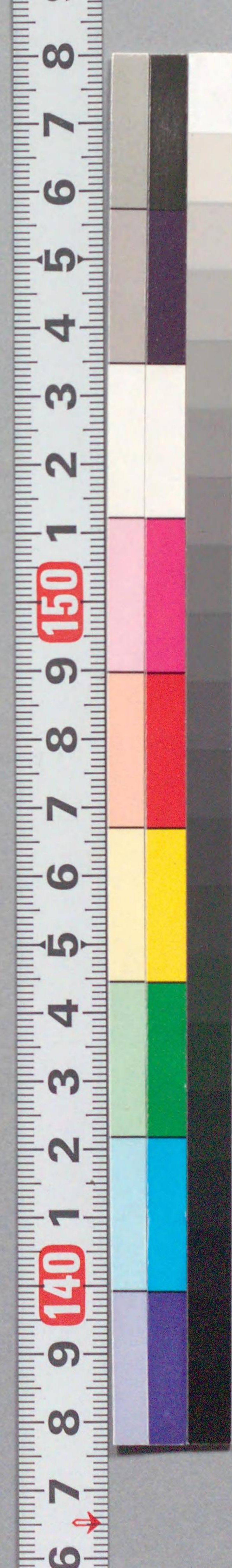


208  
2  
139









そのあは 美羽二重の役附り 袴と  
法者一カと帯と 為学履みく 袴内  
とが 鶴と法とせと 同座場と 丁寧  
挨拶と通と 吏宿とより 次つたの宿と  
人を付と送とせと 行まわ粧ま服と 袴はかませり  
物の為と字と 具物の男女群と 成なせり  
とぞ 存ぞん来き菊きく中ちゆう島しまが 人ひと品しん王おう候こう大人おとなの もかた

くかぬもの 祥しやうあり 所しよ謂い五ご十じゆ三さん騎き  
火ひ手てと 振あり 何なにと 後あ者やも 今いまと 昔むかし  
何なにと 思おもわれ 菊きく五ご郎らうが 使け奉ほう心しんと  
屋や道みち中ちゆうの 雜ざ費ひ修しゆと 二に百ひやく金きんと 死し  
ひといと 通とほく 一いつ世せの 美み談だんと 後あ世せの 話わ柄へい  
と 形かたちり 堂どうひる 余あり 何なにり 此こ書しよも  
赤せき東とう海かい道どうの 路ろ路ろと 数かずと 何なにと 後あ者や修しゆ





嘉永五壬子年暮  
 八文  
 自笑  
 活らぬくあれが其妻とあつて  
 ぬく序廻り撫るとも

三世再  
稱五世





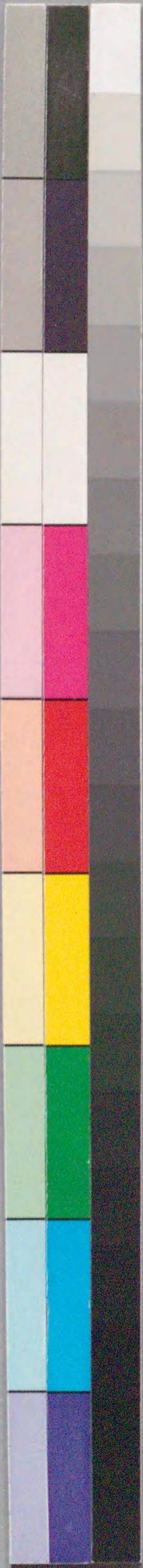
















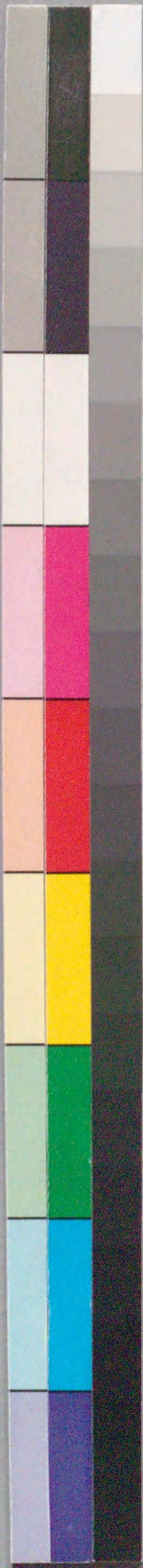
竹相根  
初花

小田原  
勝五郎

是好  
舌  
外食  
喰







白しらくくむ  
 美うつくしくの  
 花はなや  
 虹にじの下した  
 慶あゆ舎ま

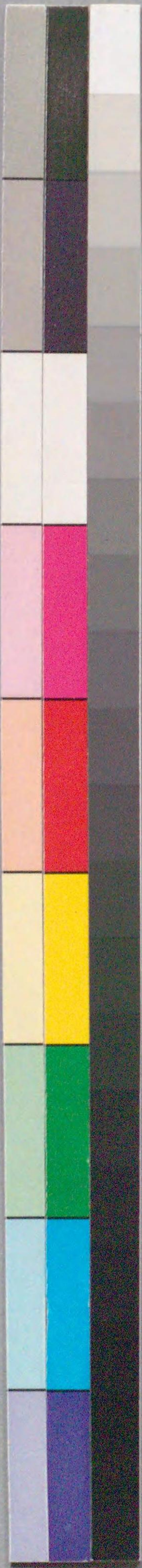
沼津のづみ  
 百ひゃく廿にじゅう八はち  
 年ねん傳でん

青柳あおやなぎや  
 黄楊わうやうの  
 路みち考がう  
 故こ

三島しみま  
 小こ見みんん







橋寛

梅の  
何よ  
秋の  
新

吉原  
下  
とるせ



高松

有  
い  
ま  
ん  
の  
新

原  
吉原  
下  
とるせ











江戸  
尻  
下

奥津  
見雷也

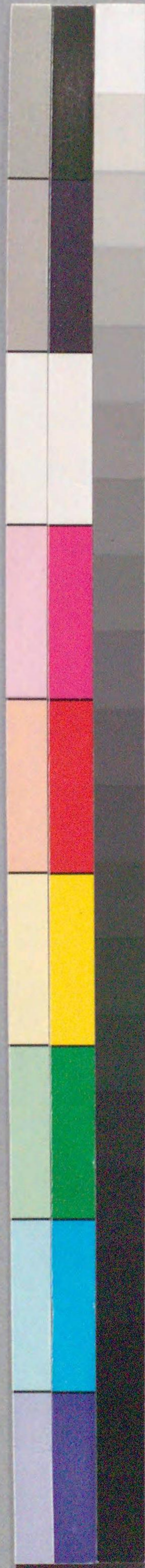
牛  
合  
鼻  
れ  
志

子  
啼  
蛙  
の  
子  
井

九







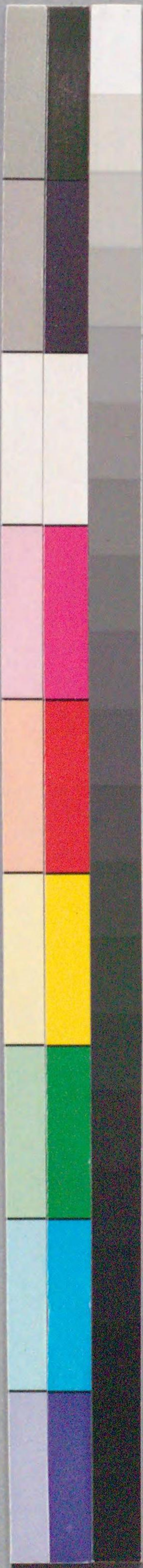
鞠子  
 田子年



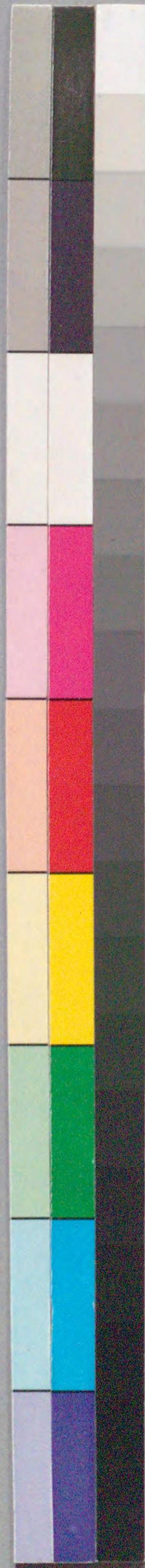
府中  
 八



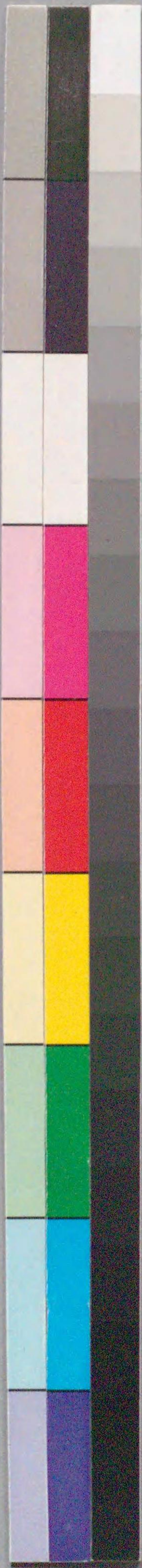












米<sup>こめ</sup>ぐ<sup>ら</sup>の  
 侍<sup>さむらい</sup> 氣<sup>き</sup>も  
 故<sup>ゆ</sup> 鳴<sup>な</sup>く  
 錦<sup>にしき</sup>升

掛川<sup>かかけがわ</sup>  
 日<sup>ひ</sup>本<sup>ほん</sup>方<sup>かた</sup>あ

あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>や  
 大<sup>おほ</sup>騒<sup>さわ</sup>り<sup>り</sup>の  
 人<sup>ひと</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>

故<sup>ゆ</sup> 款<sup>かん</sup>山<sup>さん</sup>

日坂<sup>ひさか</sup>  
 廿<sup>に</sup>九<sup>く</sup>下<sup>げ</sup>  
 登<sup>のぼ</sup>り<sup>の</sup>鏡<sup>かがみ</sup>





208  
2  
139

日吉



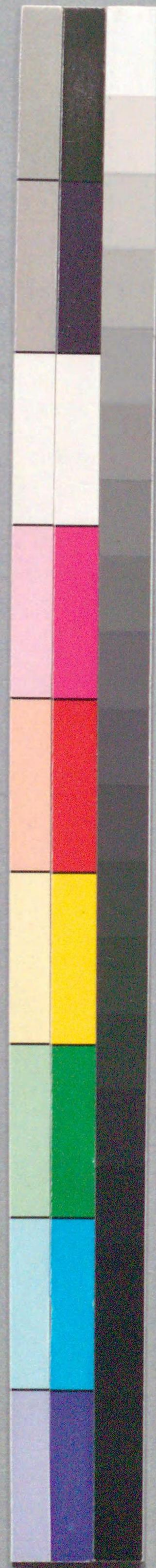
瑠寛

藤之英也  
 鳥也  
 日吉  
 啼

袋井  
 和信







国立国会図書館 俳優見立五十三次 2編 208-139



ガラス使用

